

諏訪の景気動向

平成29年2月

(平成29年1月末 D・I調査)

平成29年2月28日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

諏訪地方の景気動向（平成29年1月末調査）

「平成29年1月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方194社のご協力を得て行った平成29年1月末の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 7.3$ となり、前回調査時(平成28年10月末、以下同)の0.0から悪化した。製造業の業況判断DIは $\Delta 3.8$ で、前回の $\Delta 0.8$ から悪化した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも $\Delta 14.7$ で、前回の1.6から16.3ポイント悪化した。「3ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が2.2(前回 $\Delta 3.9$)、非製造業は14.8(前回 $\Delta 6.6$)で好転予想が多く、回答全社では6.2(前回 $\Delta 4.7$)となった。

1月は米国でトランプ大統領が就任し、その言動や今後の政策の不透明感が、世界経済に影響をおよぼした。諏訪地方の企業からも製造業を中心に懸念の声があり、製造業のトランプ氏の影響による3ヶ月後の業況予想は18.0%が悪化するとしている。また、どのような影響が出るか分からないとする声も多い。製造業は業種や取引先によって業況が異なる。非製造業は、寒暖差の激しい天候や消費マインドの低下などが商業や観光に影響した。建設業は横ばい状況で推移している。また、有効求人倍率が上昇し、すべての業種で人手不足が課題となり、深刻化している。

製造業の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは前回の1.6から $\Delta 5.3$ へ悪化し、売上DIは前回の4.7から $\Delta 9.0$ へ悪化した。収益性DIも前回の $\Delta 6.2$ から $\Delta 6.8$ へやや悪化し、マイナス水準が続いた。一方、「前年同期」との比較では、業況判断DIは前回の $\Delta 8.5$ から5.2、受注状況DIは前回の $\Delta 4.6$ から9.0、収益性DIは前回の $\Delta 4.6$ から4.5へそれぞれ好転し、プラス水準となっている。「3ヶ月後」の予想DIは、業況判断が前回の $\Delta 3.9$ から2.2、受注状況は前回の $\Delta 5.4$ から3.7、収益性は前回の $\Delta 4.6$ から0.0と好転予想が増加している。地区内製造業は、省力化機械関連が繁忙状態で「外注先を探すことが難しい」という声がある一方で、国内向け自動車部品関連では低迷状態が続くなど、取引先や取扱い製品などの状況によって格差がある。自動車関連業界を中心に、トランプ大統領の言動による今後の日米関係を懸念する声は多い。

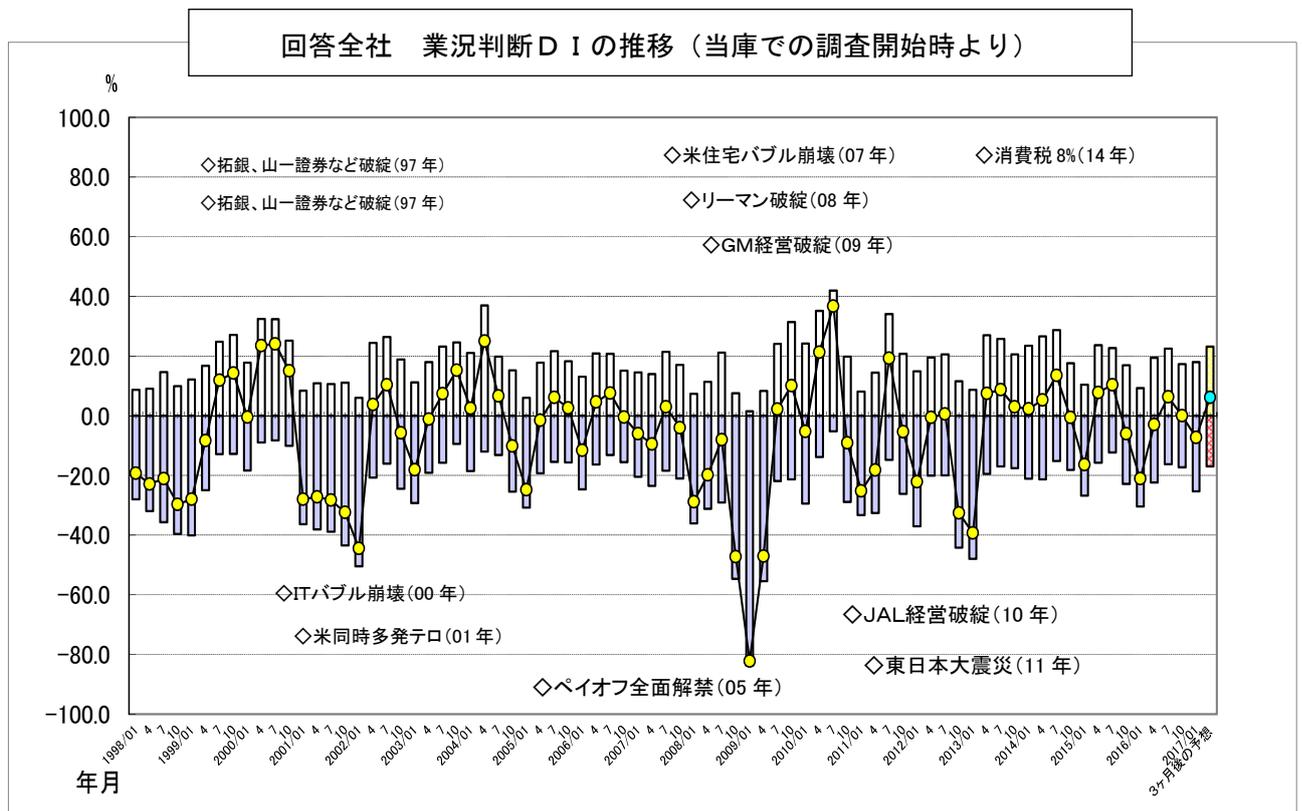
商業は、「前年同期比」では業況判断DIが $\Delta 17.8$ (前回 $\Delta 24.2$)、来客数DIが $\Delta 21.5$ (前回 $\Delta 44.9$)とマイナス水準ながら改善傾向が見られるが、「3ヶ月前」との比較では業況判断DIが $\Delta 14.3$ (前回の $\Delta 3.5$)、売上DIは $\Delta 25.0$ (前回0.0)、来客数DIは $\Delta 21.4$ (前回 $\Delta 13.8$)と、悪化幅が広がっている。一方、「3ヶ月後」の予想は業況判断DIが14.3(前回 $\Delta 13.8$)、来客数DI10.7(前回 $\Delta 17.2$)、売上DI17.9(前回 $\Delta 20.7$)と、好転予想が多い。野菜や牛肉などの高騰で消費意欲が高まらず、初売りなどでは店舗間競争があった。自動車販売は、諏訪地方の1月の車庫証明件数(軽自動車除く)が878件で、前年同月比では65件増加(8.0%)した。3ヶ月連続で前年同月を上回っている。

観光・サービス業は、「前年同期」と比べた業況判断DIは $\Delta 18.7$ (前回 $\Delta 7.1$)、売上DIは $\Delta 25.0$ (前回 $\Delta 7.2$)で、宿泊客数DIは $\Delta 31.3$ (前回 $\Delta 21.4$)、収益性DI $\Delta 31.3$ (前回7.2)と、いずれもマイナス水準で、それぞれ悪化幅が拡大した。団体客の減少傾向に加えて、日並びで年末年始が大型連休にならなかったことなどが影響したと見られる。スキー場は、雪不足でオープンが遅れた前年に比べて積雪量が多く、上旬は北信地域の雪不足の

情報もあり、入り込みが多かった。ただ、周辺施設の集客数は価格競争もあり、施設によって状況が異なる。行楽シーズンに向かう「3ヶ月後」は、業況予想DI18.8(前回の△14.3)、宿泊客数予想DI12.5(前回△35.7)と前回より好転している。

建設業は、「3ヶ月前」と比した業況判断DIは0.0で、大幅に改善した前回調査時から横這いで推移した。受注状況DIは前回の22.2から△5.9と悪化した。「前年同期比」では業況判断DIが△5.9(前回△16.6)、収益性DIは0.0(前回△22.2)と改善している。「3ヶ月後」の業況予想DIは11.7で前回とはほぼ同様で、受注予想DIは0.0で前回の△5.5より改善した。諏訪地方の平成28年12月の新設住宅着工戸数は92戸で、前年同月比7戸増加(8.2%)した。平成28年4月～12月の累計着工戸数は889戸で、前年同期比102戸増加(13.0%)している。平成29年1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は13件、389百万円だった。また、市町村からの受注工事は、合計31件、135百万円で、前年同月比件数は32件増、契約金額は210百万円減少した。

雇用状況は、平成28年12月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.20ポイント上回り、前月を0.03ポイント上回る1.51倍となった。1倍台は33ヶ月連続。長野県は1.56倍で、全国は1.43倍だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,639人で前年同月比232人増加(16.5%)した。新規求職者数は693人で前年同月比66人減少(△8.7%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、その他のサービス業で56.3%、製造業で33.8%増加したが、生活関連サービス・娯楽業で16.7%減少した。求人の要因別では「継続する人員不足」「創業・新分野展開」が増加し、「業務量増大」「欠員補充」が減少した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は11人で、前年同月より44人減少、前月より10人減少した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(194社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が18.0%、「横這」企業が56.7%、「悪化」企業が25.3%で△7.3となった。前回調査時点で3ヶ月後の予想DIは△4.7だったが、予想より「好転」企業が多く、「悪化」企業が少なかった。

製造業は、「好転」企業が前回の16.9%から18.8%へ1.9%増加し、「悪化」企業は17.7%から22.6%へ4.9%増加した。非製造業は、「好転」企業が前回の18.0%から16.4%へ減少し、「悪化」企業は16.4%から31.1%へ増加した。観光・サービスの業況判断DIは△31.3で45.6ポイント悪化した。建設業は0.0(前回0.0)と横ばいで推移し、商業は前回の△3.5から△14.3と悪化している。

産業別業況表

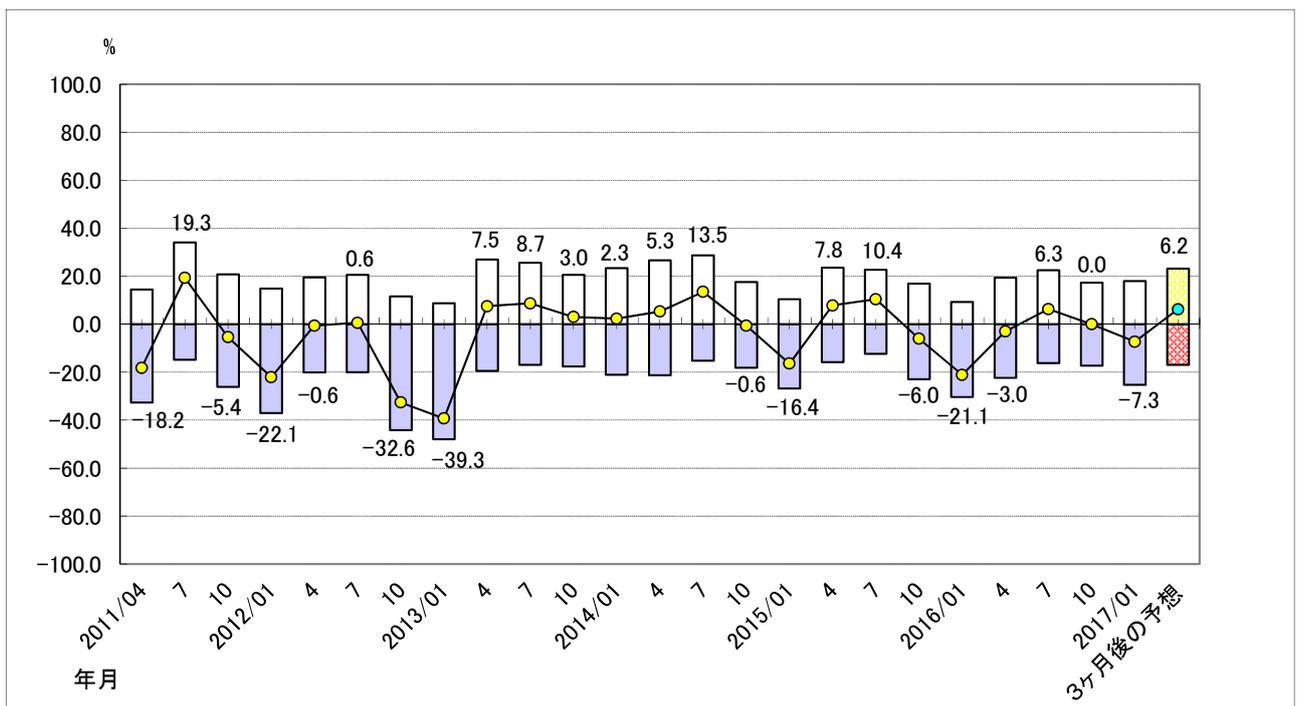
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	194	18.0	56.7	25.3	-7.3	194	25.8	47.4	26.8	-1.0	193	23.3	59.6	17.1	6.2
製造業	133	18.8	58.6	22.6	-3.8	133	29.3	46.6	24.1	5.2	132	18.9	64.4	16.7	2.2
非製造業	61	16.4	52.5	31.1	-14.7	61	18.0	49.2	32.8	-14.8	61	32.8	49.2	18.0	14.8
商業	28	14.3	57.1	28.6	-14.3	28	14.3	53.6	32.1	-17.8	28	39.3	35.7	25.0	14.3
建設業	17	11.8	76.5	11.8	0.0	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	23.5	64.7	11.8	11.7
観光・サービス	16	25.0	18.8	56.3	-31.3	16	18.8	43.8	37.5	-18.7	16	31.3	56.3	12.5	18.8

自社業況判断DIの推移

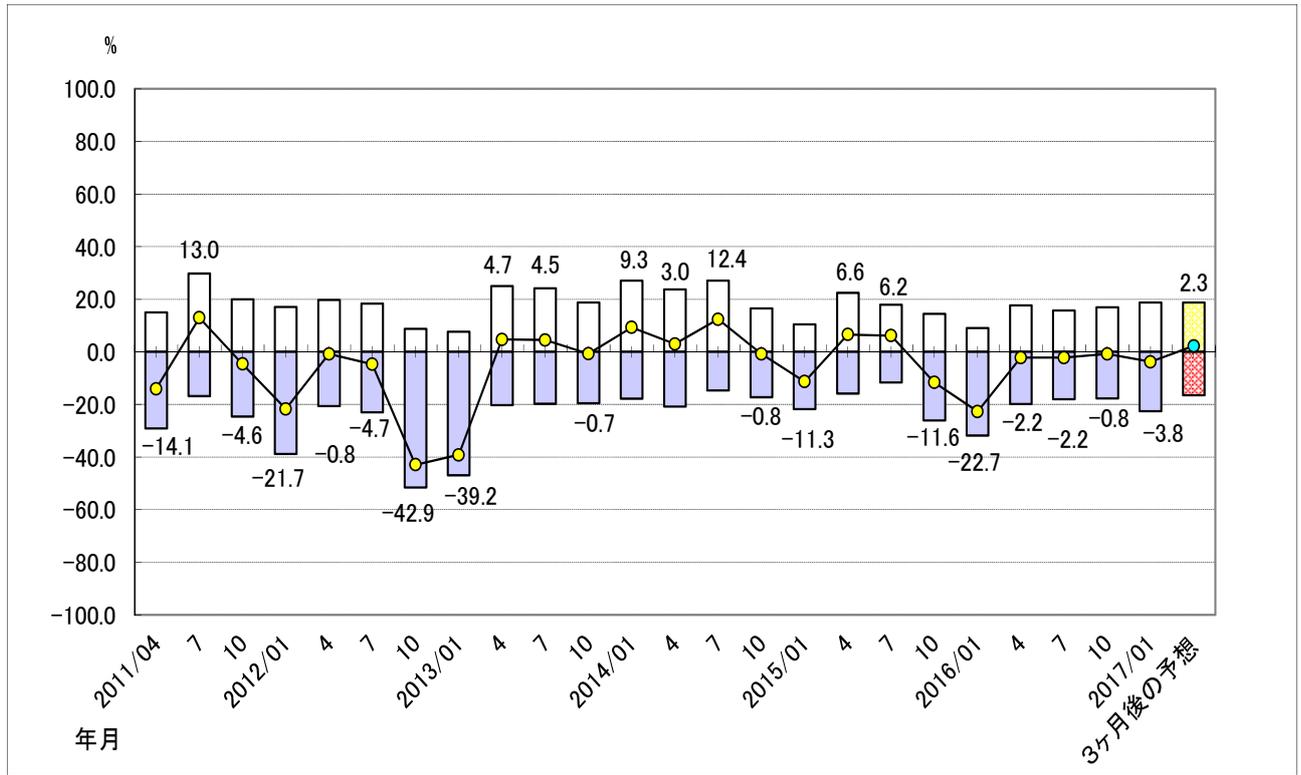
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



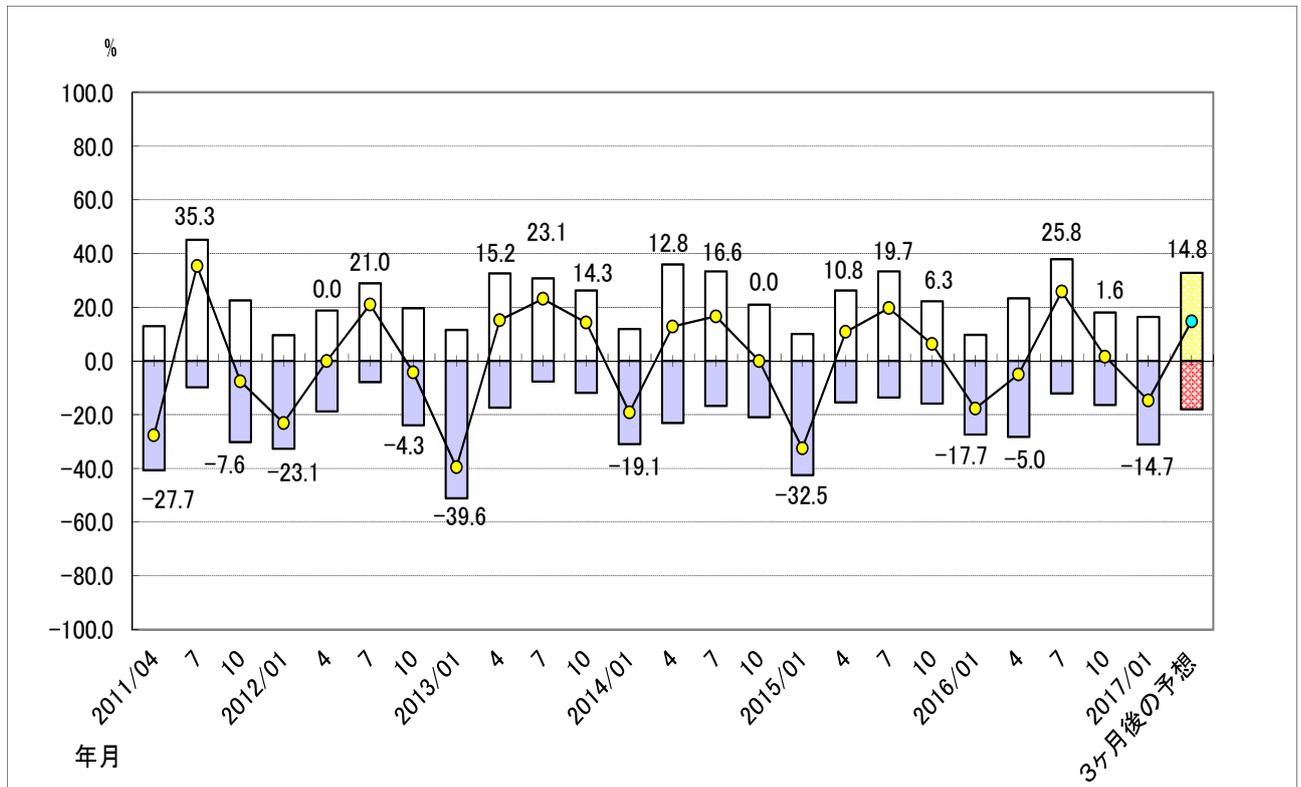
●製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△3.8と、前回調査時の△0.8から悪化した。「前年同期」比では5.2と前回の△8.5から13.7ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は2.2で好転予想の企業が増え、前回の△3.9から6.1ポイント改善した。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて△5.3で、前回の1.6から悪化した。「前年同期」比は前回の△4.6から9.0へ改善している。「3ヶ月後」の予想DIは3.7で前回の△5.4から改善している。自社でこなしきれない量の受注がある企業の反面、少ロット、短納期で長期予想が出来ない企業もある。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△6.8と前回の△6.2から0.6ポイント悪化した、「前年同期」比は前回の△4.6から4.5～9.1ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は0.0で、前回の△4.6より改善している。

電力や燃料などのエネルギーコストは3ヶ月前に比べて25.6%（前回7.7%）、前年同期比では20.3%（前回9.2%）の企業が上昇している。3ヶ月後は75.2%（前回78.5%）が横這で推移するとみている。

業種別（主要5業種）の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「輸送用機械」は7.2（同0.0）、「電気機械」が6.6（同△3.4）と改善し、「精密機械」が0.0（前回18.2）、「金属製品」が20.0（同23.5）、「一般機械」は△8.6（同0.0）で悪化した。

「前年同期」比では、「金属製品」が46.7（前回23.6）、「輸送用機械」が21.4（同6.2）、「電気機械」が13.4（同△20.7）、「精密機械」は25.0（同9.1）と改善したが、「一般機械」は△20.0（同△15.1）と悪化した。

「3ヶ月後」の予想DIは、「輸送用機械」が7.1（同0.0）、「電気機械」は0.0（同△3.5）、「金属製品」は0.0（同△11.7）、「一般機械」が△2.9（前回△3.1）と好転予想が多いが、「精密機械」は△8.4（同9.1）と悪化予想が多くなっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	133	18.8	58.6	22.6	-3.8	133	29.3	46.6	24.1	5.2	132	18.9	64.4	16.7	2.2	
規模	1～29人	72	13.9	62.5	23.6	-9.7	72	23.6	52.8	23.6	0.0	72	9.7	68.1	22.2	-12.5
	30～99人	43	30.2	46.5	23.3	6.9	43	39.5	34.9	25.6	13.9	42	26.2	61.9	11.9	14.3
	100人～	18	11.1	72.2	16.7	-5.6	18	27.8	50.0	22.2	5.6	18	38.9	55.6	5.6	33.3
分類	金属製品製造業	15	26.7	66.7	6.7	20.0	15	60.0	26.7	13.3	46.7	14	21.4	57.1	21.4	0.0
	一般機械器具製造業	35	17.1	57.1	25.7	-8.6	35	20.0	40.0	40.0	-20.0	35	17.1	62.9	20.0	-2.9
	電気機械器具製造業	30	23.3	60.0	16.7	6.6	30	36.7	40.0	23.3	13.4	30	13.3	73.3	13.3	0.0
	輸送用機械器具製造業	14	14.3	78.6	7.1	7.2	14	21.4	78.6	0.0	21.4	14	21.4	64.3	14.3	7.1
	精密機械器具製造業	12	16.7	66.7	16.7	0.0	12	41.7	41.7	16.7	25.0	12	8.3	75.0	16.7	-8.4

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて20.0で、前回調査時の23.5からやや悪化した。「前年同期比」は46.7(前回23.6)と2期連続で改善しており、「3ヶ月後」の予想は0.0(前回△11.7)で、前回より好転予想の企業が増えている。半導体製造装置関連などの受注は増加傾向だが、自動車部品関連は米国の動向もあり、先行きが不透明。材料代の値上がりも懸念材料となっている。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて△8.6で、前回の0.0より悪化した。「前年同期」比では△20.0で、前回の△15.1より悪化している。「3ヶ月後」の予想は△2.9で前回の△3.1からわずかに改善した。省力化、検査機、軽搬送機械などで旺盛な受注が続き、小規模企業まで繁忙状態だが、アジア向け工作機械は低調のまま推移し、格差が広がっている。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で6.6と、前回の△3.4から改善し、「前年同期」比も13.4で前回の△20.7から改善した。「3ヶ月後」の予想は0.0で前回の△3.5から改善したが、見方が分かれている。中国向けの電子部品が伸び、通信インフラ整備による光通信関連部品や半導体関連などで好調が続いている。リニア新幹線への大型半導体製造関連が好調な企業もある。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて7.2で、前回の0.0から改善した。「前年同期」比も21.4で、前回の6.2から改善している。「3ヶ月後」の予想は7.1で、前回の0.0から好転予想が増えた。自動車関連は大手各社の状況によって異なるが、北米依存が強まっていることなどから、トランプ大統領の言動や政策の不確実性を懸念する声が多い。総体的には、昨年と同時期より受注が回復してきたと感じる企業が増えている。北米を大きな市場とする船外機関連には、米国の自国保護主義的な政策への懸念から、先行き慎重な見方がある。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて0.0で、前回の18.2より悪化した。「前年同期比」では25.0(前回9.1)で大幅に改善した。ただ、「3ヶ月後」の予想は△8.4(前回9.1)で、好転予想の企業が減少した。通信ケーブルなどでは受注量はあるが、海外企業と比較したコストダウン要請が強い。受注に波はあるものの、総体的に大きな変動はなく推移している。

② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の△4.4から△9.7へ悪化し、「30～99人」規模は前回の2.3から6.9へ改善、「100人以上」規模は前回の5.3から△5.6へ悪化した。「前年同期」

比は「1～29人」規模が0.0で前回の△10.2から改善し、「30～99人」規模が13.9で前回の△9.5から改善し、「100人以上」規模も5.6で、前回の0.0から改善した。「3ヶ月後」の予想は、「1～29人」規模が△12.5で前回の△15.9よりやや改善し、「30～99人」規模は14.3で前回の16.7から悪化し、「100人以上」規模は33.3で前回の△5.3より大幅改善している。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べて受注状況DIは、「増加」企業23.3%、「減少」企業28.6%で△5.3と、前回調査時の1.6から悪化している。「前年同期」比は9.0で前回の△4.6から改善した。一方、「3ヶ月後」の予想は「増加」が「減少」を上回る3.7で、前回の△5.4から改善している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△4.2で、前回の△7.3から改善した。「30～99人企業」は△4.7で、前回の9.5から悪化し、「100人以上企業」は△11.1で前回の15.8から悪化している。「前年同期」比では「1～29人企業」が△1.4で前回の△8.7から改善した。「30～99人企業」は20.9で前回の△2.3から改善し、「100人以上企業」は22.2で前回の5.3から改善した。「3ヶ月後」の予想は「1～29人企業」が△9.7で前回の△18.9から改善し、「30～99人企業」は前回の14.3から9.3へ悪化した。「100人以上企業」は44.4で前回の0.0から好転予想が多くなっている。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」比は、「金属製品」が前回の17.6から0.0、「一般機械」は6.1から△11.4、「精密機械」は前回の9.1から△8.3とそれぞれ悪化した。一方、「輸送用機械」は12.5から14.3、「電気機械」は△6.9から13.4と改善した。「前年同期」比は、「金属製品」が29.5から53.4、「輸送用機械」は18.8から35.7、「電気機械」は△17.2から16.6、「精密機械」は0.0から8.3と改善したが、「一般機械」は△12.1から△14.2へ悪化した。「3ヶ月後」の予想は、「電気機械」は△3.5から3.3、「金属製品」は△17.6から20.0、「輸送用機械」は6.2から7.2、「一般機械」は△6.0から△5.7へ改善したが、「精密機械」が前回の18.2から△16.7へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

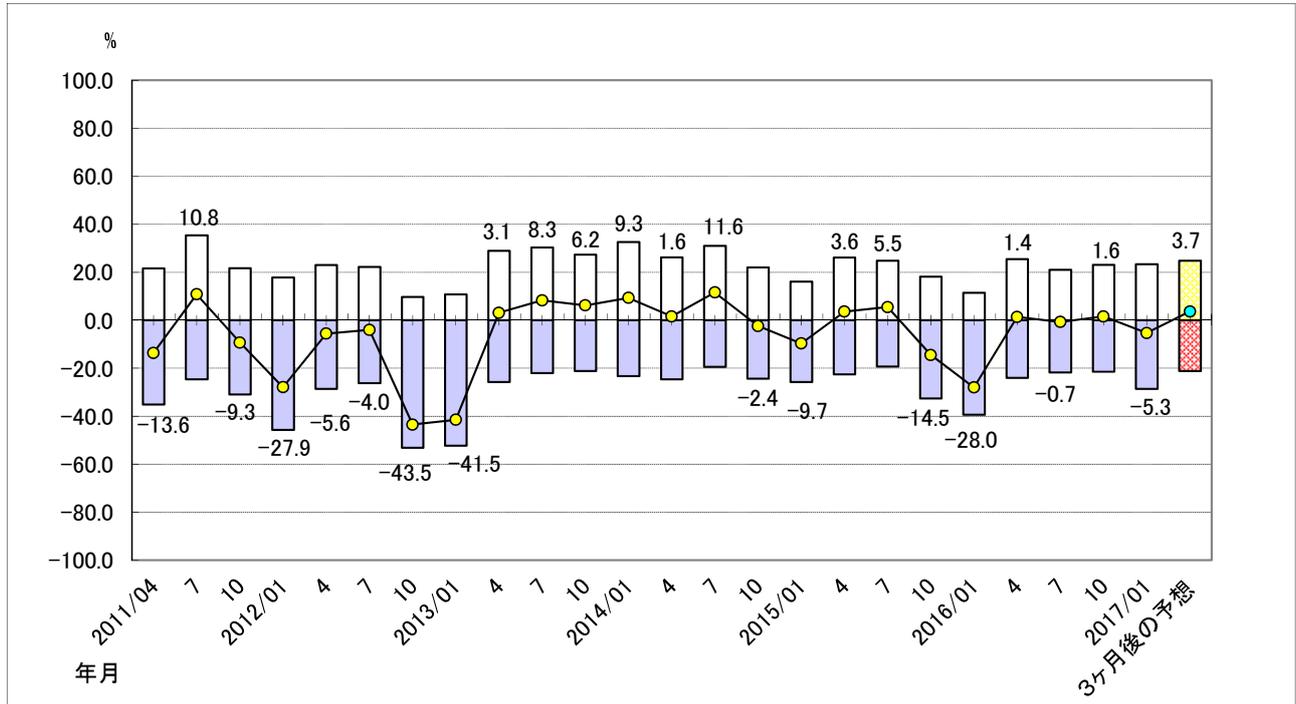
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	133	23.3	48.1	28.6	-5.3	133	33.1	42.9	24.1	9.0	133	24.8	54.1	21.1	3.7	
規模	1～29人	72	23.6	48.6	27.8	-4.2	72	23.6	51.4	25.0	-1.4	72	18.1	54.2	27.8	-9.7
	30～99人	43	27.9	39.5	32.6	-4.7	43	44.2	32.6	23.3	20.9	43	25.6	58.1	16.3	9.3
	100人～	18	11.1	66.7	22.2	-11.1	18	44.4	33.3	22.2	22.2	18	50.0	44.4	5.6	44.4
中分類	金属製品製造業	15	26.7	46.7	26.7	0.0	15	66.7	20.0	13.3	53.4	15	33.3	53.3	13.3	20.0
	一般機械器具製造業	35	22.9	42.9	34.3	-11.4	35	22.9	40.0	37.1	-14.2	35	20.0	54.3	25.7	-5.7
	電気機械器具製造業	30	36.7	40.0	23.3	13.4	30	43.3	30.0	26.7	16.6	30	23.3	56.7	20.0	3.3
	輸送用機械器具製造業	14	14.3	85.7	0.0	14.3	14	35.7	64.3	0.0	35.7	14	28.6	50.0	21.4	7.2
	精密機械器具製造業	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	25.0	58.3	16.7	8.3	12	8.3	66.7	25.0	-16.7

製造業の受注状況DIの推移

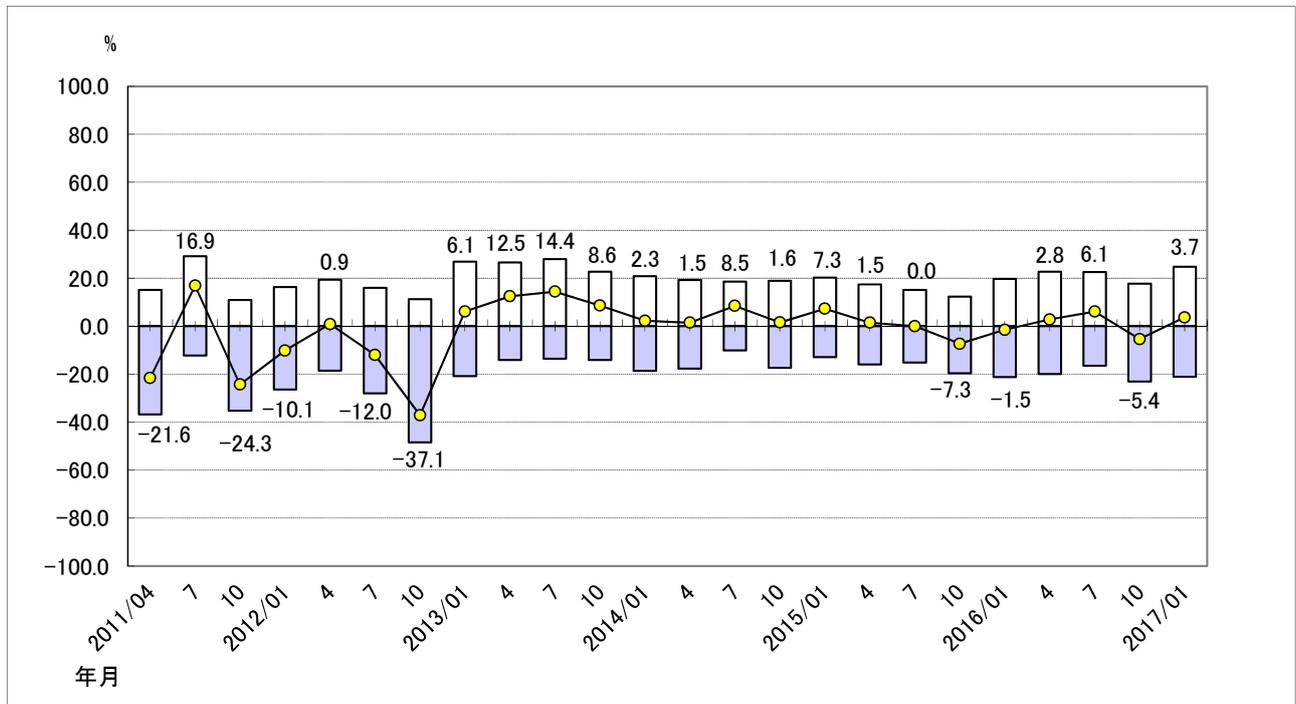
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



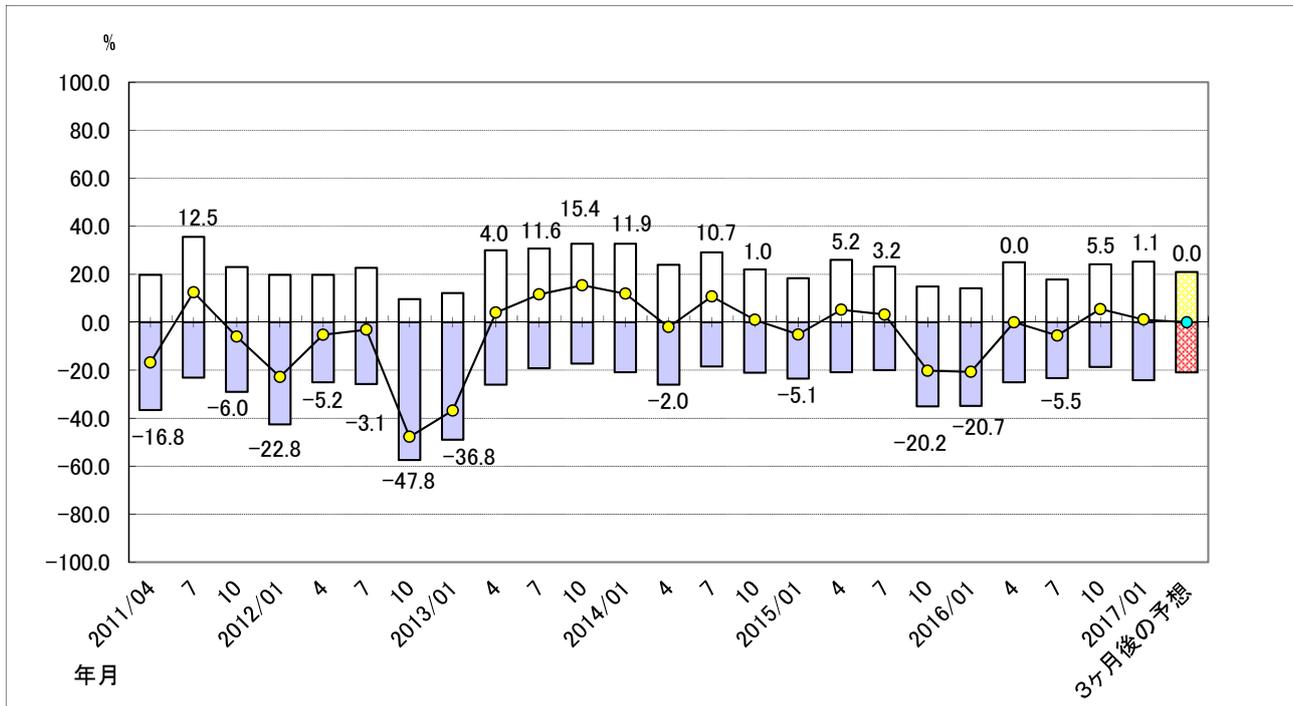
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



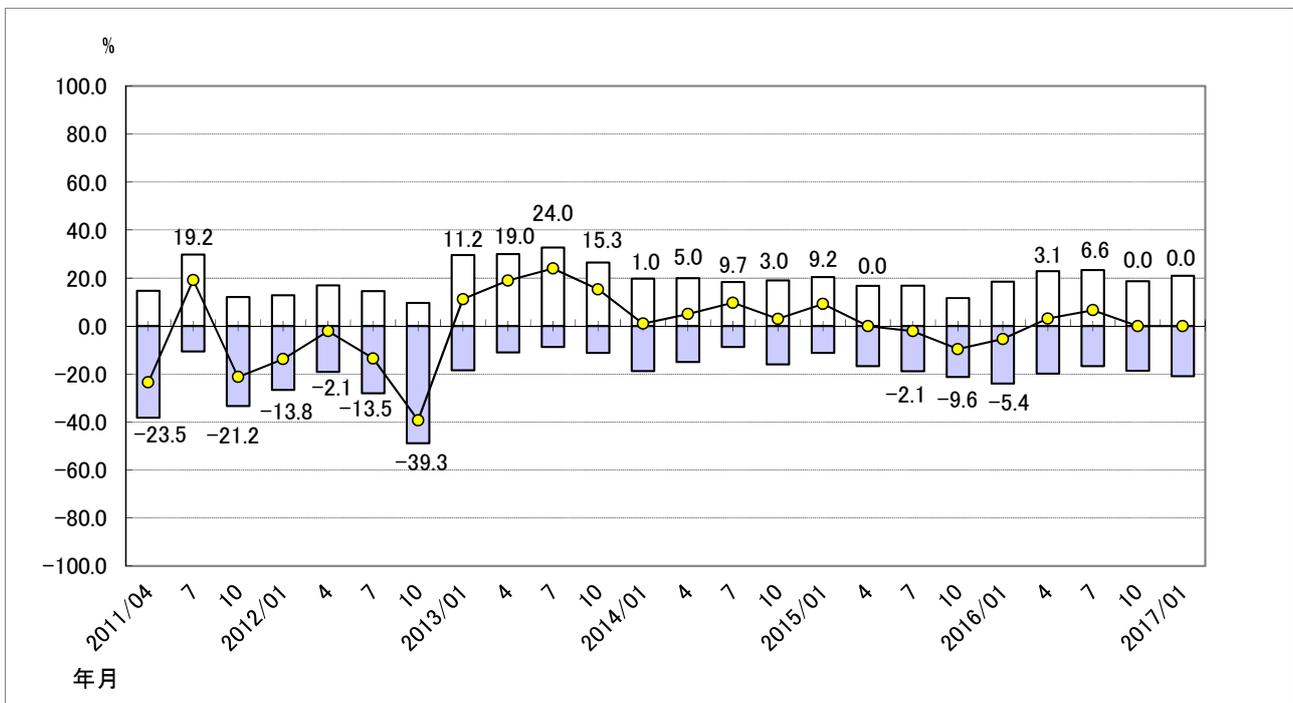
●製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



商業・観光サービス業

①商業 「前年同期」に比べて、業況判断DIは△17.8と前回の△24.2から改善した。来店客数DIも△21.5と前回の△44.9から改善した。「3ヶ月後」は、業況予想DIが14.3で前回の△13.8から改善し、収益性予想DIも10.7で、前回の△13.8から好転予想の企業が増えている。来客予想DIも10.7で前回の△17.2から改善した。1月の諏訪地方は今冬最大の積雪があり、寒暖差も激しく客足に影響を与えた。

- 食料品 葉物野菜、果物、鮮魚等が高値で、慢性的に国産牛、和牛が供給不足となり、外食産業全体に影響をおよぼした。
- 衣料品 寒暖差はあったものの、暖かい日が続く、総的には冬物衣料が苦戦した。消費意欲の低下もあって新規購入を控える雰囲気もあった。
- 自動車 長野県内の1月の新車新規登録・届出台数は登録車が4,569台で3ヶ月連続で増加し、軽自動車は3,557台で25ヶ月連続減少した。全体では3ヶ月ぶりに減少した。
- 家電店 家電量販店などでは、デジタル一眼レフカメラの高機能交換レンズに人気が出ている。
- ホームセンター 降雪時には、雪かきなどの除雪用品に動きがあった。

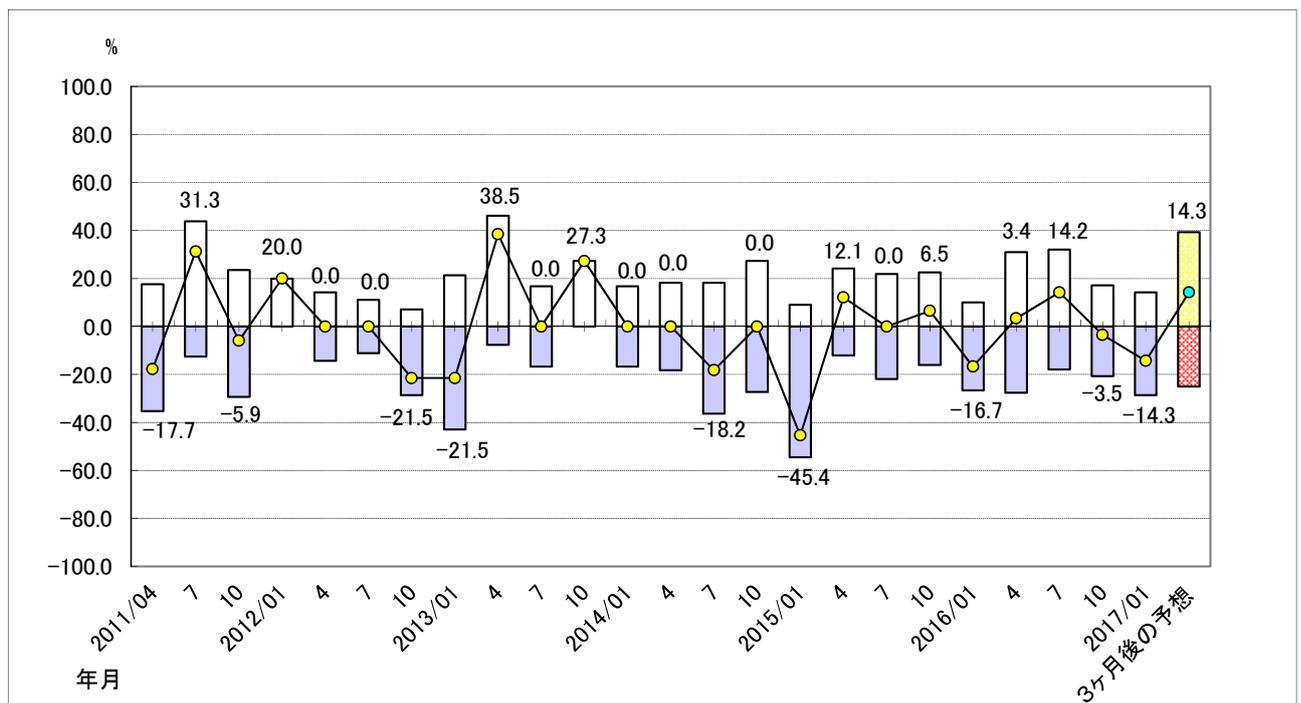
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	28	14.3	57.1	28.6	-14.3	28	14.3	53.6	32.1	-17.8	28	39.3	35.7	25.0	14.3
客単価	28	7.1	71.4	21.4	-14.3	28	10.7	71.4	17.9	-7.2	28	21.4	71.4	7.1	14.3
来店客数	28	10.7	57.1	32.1	-21.4	28	7.1	64.3	28.6	-21.5	28	28.6	53.6	17.9	10.7

●商業全社:「3ヶ月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期」比で、宿泊客数DIは△31.3 で前回の△21.4 から悪化した。客単価DIも△12.5(前回△7.2)で悪化した。「3ヶ月後」は季節要因もあり、宿泊客数予想DIが12.5と前回の△35.7から改善し、業況予想DIは18.8と前回の△14.3 から改善した。ツアーバスによる一般団体客は減少したが、スキー場は北信地域の雪不足の情報もあり、暖冬だった前年に比べて来場者数が増加した。

- 上諏訪温泉 1月の宿泊客数は前年同月を下回った施設が多い。前年同月比は90%～125%台。構成人別では1～4人の個人客が多く、方面別では県内、関東、東京からの宿泊客が多かった。インバウンドも前年同月より増加した。冬の閑散期を利用して完全休館や設備改修を行う施設もある。
- 蓼科・白樺湖・スキー場は雪が昨年より潤沢で、穏やかなスキー日和もあり、入り込みが多かった。車山方面ほか ゲレンデ来場者に加え、スノーシューの雪山ハイキング来場者が堅調だった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1月の参拝者数は約37万3千人で、前年同月比約2万6千人の減少(△6.5%)となった。

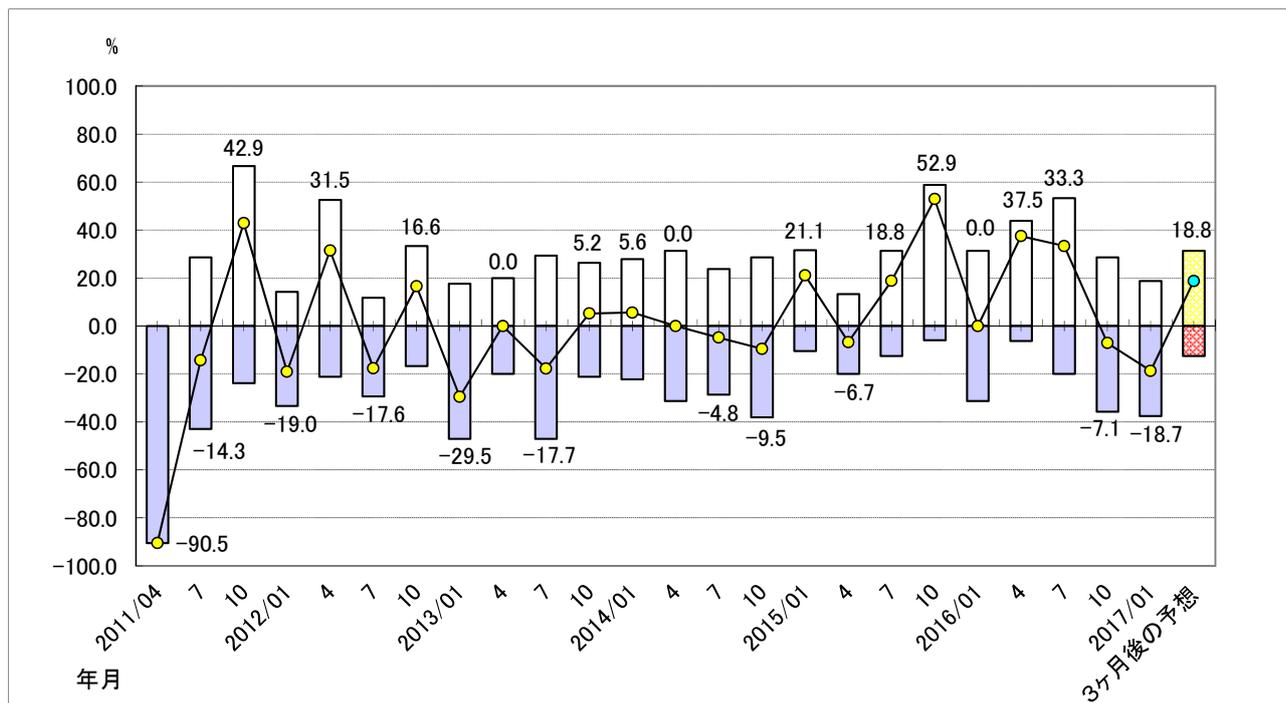
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	25.0	18.8	56.3	-31.3	16	18.8	43.8	37.5	-18.7	16	31.3	56.3	12.5	18.8
客単価	16	6.3	43.8	50.0	-43.7	16	12.5	62.5	25.0	-12.5	16	18.8	68.8	12.5	6.3
宿泊客数	16	25.0	18.8	56.3	-31.3	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	37.5	37.5	25.0	12.5

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは0.0で、横這い状況で推移している。受注状況DIは前回の22.2から△5.9へ悪化している。収益性DIも△5.9で前回の△5.5からやや悪化傾向となっている。「前年同期比」の業況判断DIは△5.9で前回の△16.6から改善した。3ヶ月後の業況予想DIは11.7で、前回の11.1とほぼ同様な予想となっている。平成27年1～12月と平成28年1～12月の新設住宅着工件数の推移をみると、平成28年は御柱月の3、4、5月は前年を下回ったものの、そのほかの月は、ほぼ前年同月を上回っている。年間では平成27年が962件で1,000件の大台を割ったのに対し、平成28年は1,087件で125件、13.0%の増加となっている。

●建築工事

諏訪地方の平成28年12月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市16戸、諏訪市23戸、茅野市38戸、諏訪郡15戸の合計92戸だった。長野県全体の12月の新設住宅着工戸数は1,096戸で、前年同月比23.8%増加した。持家と分譲は2ヶ月連続の増加、貸家は6ヶ月連続増加した。

●公共工事

地元業者が受注した1月の国県関係の公共工事は、13件、389百万円だった。平成28年4月～平成29年1月の累計は141件、4,081百万円で、前年同期累計比で14件、580百万円増加している。

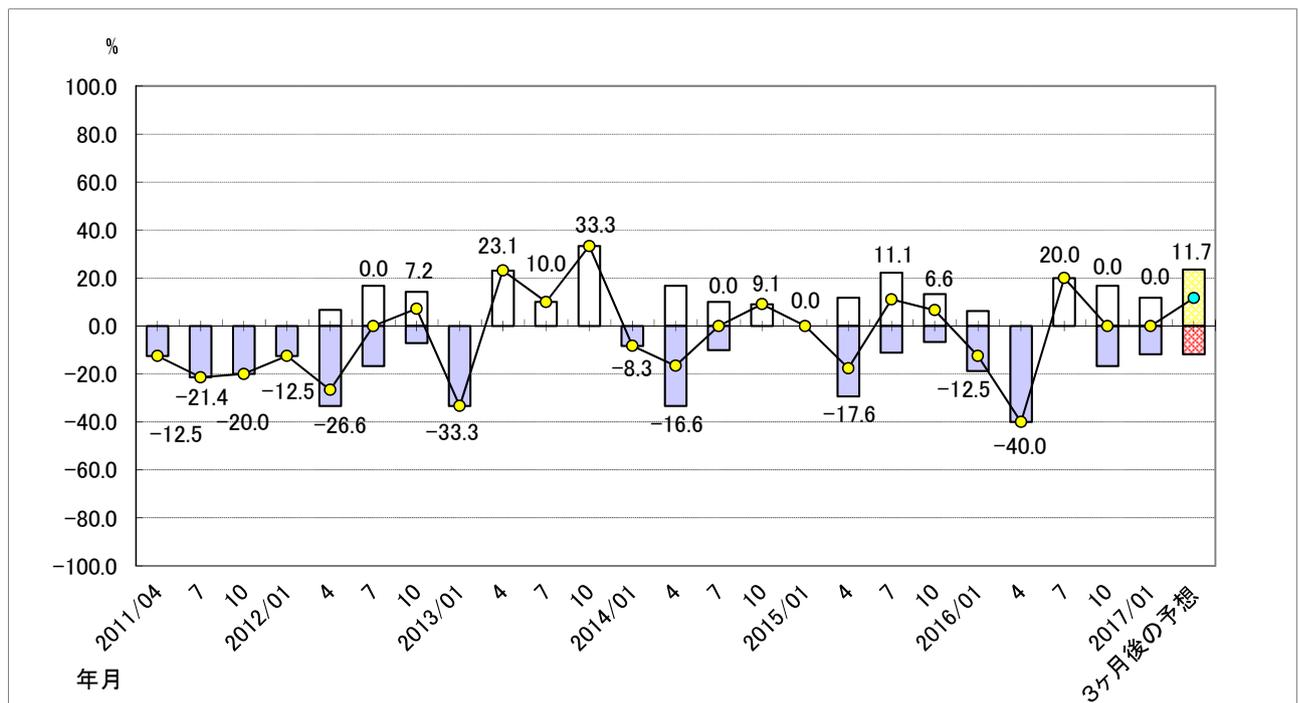
業況、受注状況、外注発注量

表－6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	17	11.8	76.5	11.8	0.0	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	23.5	64.7	11.8	11.7
受注状況	17	29.4	35.3	35.3	-5.9	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	23.5	52.9	23.5	0.0
外注発注量	17	5.9	70.6	23.5	-17.6	17	11.8	70.6	17.6	-5.8	17	5.9	88.2	5.9	0.0

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー10



4.収益性状況

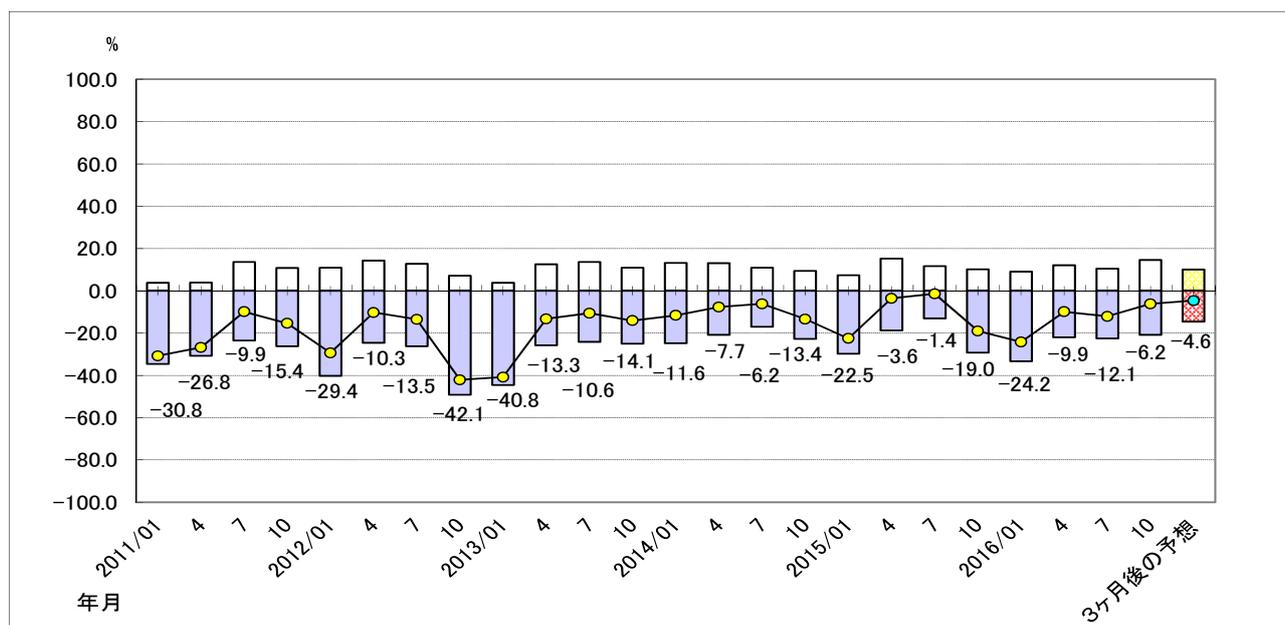
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 12.9%、「悪化」企業 22.2%で、同DIは△9.3と前回調査時の△6.3よりやや悪化した。前年同期比では△1.6で、前回の△6.8よりやや改善した。

「3ヶ月前」と比べて製造業は△6.8で前回の△6.2より0.6ポイント悪化し、非製造業は△14.8で前回の△6.6より8.2ポイント悪化している。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が0.0で前回の△4.6より改善し、非製造業も3.3で前回の△16.4より改善している。回答全社では1.0で、前回の△8.4より改善している。

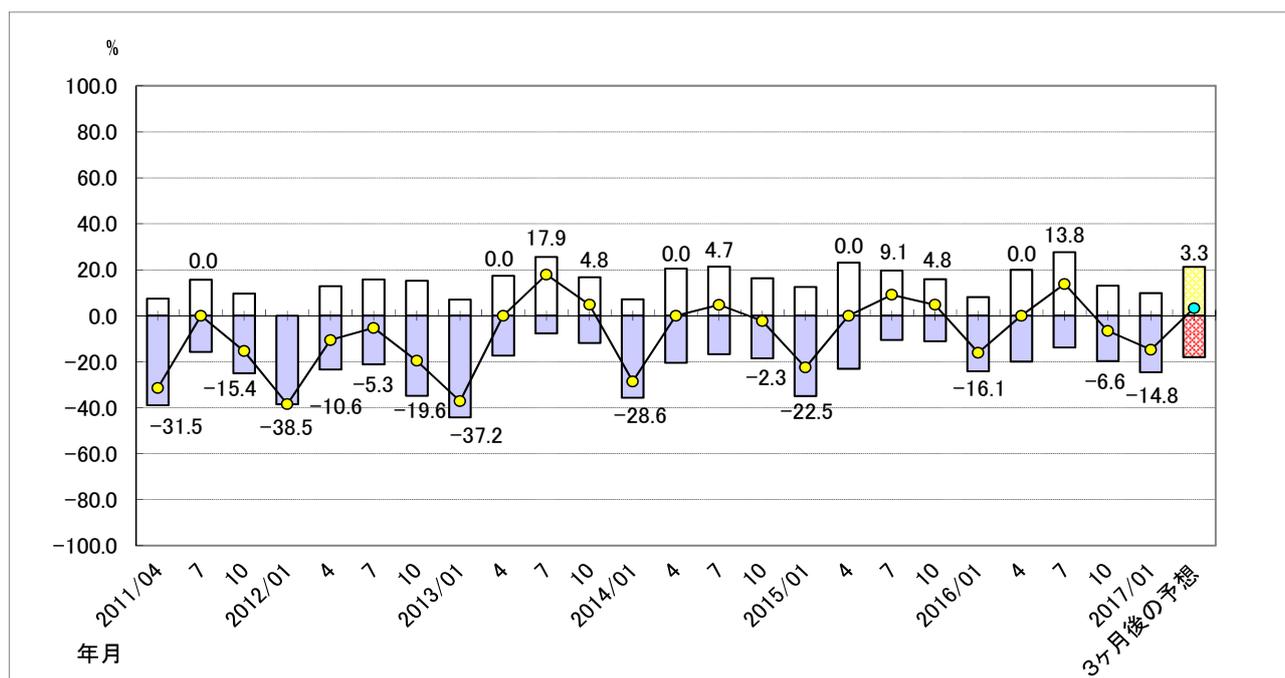
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業は競争激化と労働力確保③建設業は、労働力確保、競争激化、売上減少④観光・サービス業は売上減少と人件費となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	77	52	10	6	9
単価引下げ	31	25	4	0	2
競争激化	49	29	12	6	2
資金繰り	37	23	7	4	3
人件費	45	25	7	4	9
労働力確保	83	61	11	6	5

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	1.51倍	0.20ポイント
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	5,579枚	559枚
	金額	6,951百万円	306百万円
	うち不渡り発生状況	枚数	2枚
	金額	380千円	380千円
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		878件	8.0%
新設住宅着工戸数【平成28年4～12月】(諏訪管内)		889戸	13.0%

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 平成29年1月末。
- ② 調査内容 「平成29年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査およびヒアリング調査(約130社)。
- ④ 対象地域 諏訪地域全域。
- ⑤ 業種 製造業、商業、建設業、観光・サービス業。
- ⑥ 回答企業数 194企業。
- ⑦ 回答率 77.6%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	133	28	17	16	194